

令和2年度 事業報告書

障害児通所支援

第2ちゃ一む

生活支援に関する事業

	実施事業名	実施月	実施状況		主な実施内容	結果
			参加人数	実施回数		
A 日 中 活 動	室内活動	通年	全員対象	毎日	一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	宿題や個別課題等に意欲的に取り組む様子が多く見られた。いろいろな遊びを提案することで興味の幅が広がり、行事やゲームを通して集団でのルールを学んだり、皆との活動を楽しんでいた。
	室外活動	通年	全員対象		近隣の公園や海洋博物館、公共の施設への外出を通して、基礎体力と心身の健康増進を図る。	今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、室内公共施設への外出は控えたが、近隣散策や公園遊び、夏のプール遊び等で気持ちを切り替え、健康増進につながった。
	製作活動	通年	全員対象	月1回	手・指先を使うことで日常生活活動能力の向上を目指す。また、製作活動を通して達成感を味わい自信に繋げていく。	作品を完成させることで達成感や季節感を味わい、家族に子どもの成長を感じていただくことができた。
	ミュージック・ケア	通年	全員対象	月2回	音楽の特性を利用して、心身の快い刺激を与え、対人的な関係の質を向上させ、情緒の回復や安定を図る。さらに運動感覚や、知的機能の改善を促し、心身と生活に好ましい変化を与える。	音楽や掛け声に合わせて体を動かす事で注意力が養われた。友達との触れ合いの中で、コミュニケーションを楽しむ様子が見られた。
	リトミック	通年	全員対象	月2回	楽しく音楽と触れ合いながら、基本的な音楽能力を伸ばすとともに、身体的、感覚的、知的にも、子どもたちが個々に持っている潜在的な基礎能力の発達を促していく。	身近な歌の伴奏で親しみを感じ、音の高低や速さ、拍子を聴きわけながら体を動かすことで、楽しみながら基本的な音楽能力や感覚を伸ばすことができた。
	スヌーズレン	通年	全員対象	通年	聴覚・視覚・触覚・味覚・嗅覚の五感を使って、トータルリラクゼーションの心地よい空間を提供する。	各自が自分の心地よい過ごし方で過ごしていた。気持ちを切り替え安定を図るスペースとして活用することもあった。
	キッズヨガ	通年	全員対象	月2回	心と身体両方に作用するヨガを通して健康な身体を作ると同時に、精神の落ち着きを得ることで自己肯定感などを高め、豊かな人間性を育成することを目的に行う。	静かな環境で活動することで気持ちが落ち着き、いろいろなポーズを通して体幹や柔軟性を養うことができた。
	フラ体操	通年	全員対象	月1回	フラダンスをベースとした体操で脳の活性化、健康促進を目的に行う	フラダンスの基本的な動作を覚えながら体操を楽しみ、健康促進につながった。

	親子参観	7月	児童発達 学年 低	1回	利用者と一緒に、保護者にも所での活動を体験していただくことにより、親子関係を深めるとともに、職員との信頼関係を築いていく。	親子で一緒に活動を楽しんだり、話し合いの場を設けることで職員との信頼関係を築くことにつながった。
	華道教室(フラワーアレンジメント)	3月	一部利用者 (10名)	1回	草花に触れながら静の活動を行うことで情緒の安定を図る。	草花を大切に扱いながら作品を完成させ、満足感を味わい気持ちを落ち着かせることができた。
	美化活動	通年	全員対象	月1回	花壇の整備、草むしり、窓ふき等、環境美化活動を行う	日中活動の中にも取り入れ、活動を通して清潔に対しての意識向上につながった。
B 各種 療法	療法的な音楽の時間	通年	全員対象	月1回	いわき音楽療法研究会MusicForestのご協力のもと、音楽を聴いたり、歌ったり、楽器を鳴らしたりする中で心や体を刺激し、生活向上と機能回復を目的とする。	保護者からの参加希望の要望も多く、利用者も積極的参加していた。いろいろな楽器に触れたり、音楽に合わせて身体を動かしたりリズム感を養うことができた。
	陶芸療法	6月	全員対象	年1回	粘土を捏ねたり、握ったりする作業から、手指の発達を促す。子供たちの創造性を育み、作ることの楽しさや喜びを体験する。	ペンダントを製作した。捏ねる感覚を楽しむとともに、好きな色を選び着色することで「自分の作品」という達成感を持つことができた。
	遊戯療法	通年	全員対象	通年	遊びを通して、自らの問題状況や、言語化できない感情を表現することを目指す。	職員と1対1での活動や決められたルールに従ってのゲーム遊びを通して、感情の表現やコントロールを学ぶことができた。
C 療 育	SST (社会生活技能訓練)	通年	全員対象	通年	人との関わり・行動をより適切で効果的に行うことができるよう社会的スキル訓練を行う。また、学習理論(行動理論)に基づく技法を用いて体系的、意図的に対象者の技法形成を図る構造化された方法で本人の強さを引き出す。	気持ちを理解するためのスキルアップワーク等の教材を使用しての学習や、様々な活動の場面で練習することで、少しずつスキルの獲得を図った。
	太田ステージ	通年	全員対象	通年	太田ステージ評価用具を使用した評価を行うことで、客観的に個々の発達段階を把握し、各発達段階に応じた療育につなげていく。	共通のツールで評価することで、客観的に発達段階を捉えることができた。
	TEACCH	通年	全員対象	随時	周囲の状況を自分の力で理解し、自分に必要な情報を選び出し、適切な行動ができるよう障害や能力に合わせて構造化した環境を整え視覚的支援をする。	室内の環境整備とともに、全体のスケジュールと必要に応じて個別のスケジュールの提示することで切り替えがスムーズになってきた。また、視覚支援も交えて様々な場面で自分で「選択」できるよう支援を行った。

関係機関との連携強化

D 関係機関連携強化	児童発達支援	通年	児童発達児	通年	身近な地域の障害児支援の専門事業として、通所利用の障害児の受け入れだけではなく、地域の障害児・その家族を対象とした支援や保育所等の障害児を預かる施設に対する援助を行う。	連絡帳を通して保育所との情報交換を行い、発達段階に合わせた療育を提供することで、保護者からも成長が感じられるという声が聞かれた。
	家族支援	通年	全員対象	通年	不安をかかえている保護者に対する心理的なケアや家庭における療育方法の支援、利用者の兄弟に対する支援の促進など、家族を含めたトータルな支援を図っていく。	連絡帳や迎え時に保護者とコミュニケーションを図り、定期的にアンケートを実施することでニーズに合わせた支援を行った。
	ケアマネジメント	随時	各関係者	随時	支援の切れ目が生じないように、各機関との連携を図る。	必要に応じて地区センターや学校、相談事業所と協力をし、支援会議を開催した。
	法人内連携	随時	法人内関係者	随時	相談支援事業を通し、本人や家族が必要としている制度の説明やサービス等を安心して利用できるよう円滑化を図る。	個々に合わせた必要なサービスが提供できるよう、相談事業所との連携を行った。

地域力を高める

外食		全員対象		自己選択・自己決定を尊重し、地域での自立や社会参加を促進する。	新型コロナウイルス感染症の影響により外食は行わなかったが、自分で購入したものを持ち帰って食べたり、皆で天真庵のお弁当を食べる等の機会を設けた。買い物を楽しみにしている利用者も多く、自分で選び支払いをする経験を楽しんだ。
買い物	8月 11月 12月 1月	一部利用者 (38名)	年4回		
ボランティアの活用	12月	全員対象	1回	ボランティアの受け入れを積極的に行うことにより、障害児通所支援の認知を広める。	冬休み中に、高校生のボランティアを受け入れ、施設や利用者に対しての理解が深まった。
公共交通機関の利用		全員対象		就労を見据えて、公共交通機関利用(バス・電車)の訓練を行う。	新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通機関利用の訓練は行わなかった。

社会貢献

実習生の受け入れ	通年	全員対象	通年	実習生を積極的に受け入れ、障害児に対する支援や交流等を通し福祉人材の育成に貢献する。	希望者がいなかったため、受け入れはなかった。
高齢者との交流		全員対象		子供たちと高齢者とのつながりが希薄になっている状況において、子どもたちの豊かな人間性を育むとともに、子供たちが高齢者と触れ合い、高齢者から学んでいくことを目的とする。	新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった。
地域の清掃活動	通年	全員対象	通年	近隣の公園や公共施設のゴミ拾い等を行い、地域の環境保全に協力する。	室外活動の際、公園でのゴミ拾いを実施するとともに、公共のマナーについても学ぶことができた。

会議および監査に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
A. 会議	令和2年4月 令和3年3月	a. 職員会議(毎月) b. 個別支援方針決定会議(随時) c. 権利擁護委員会(随時) d. 権利擁護委員第3者との懇談会(12月) e. 次年度事業計画策定会議(10~12月) f. 行事計画会議(随時) g. サービス担当者会議(随時)
B. 監査	令和2年7月	・法人内部監査
	令和3年2月	・いわき市書面監査

研修に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
法人外	令和2年7月	・令和2年度福島県度障がい者相談支援(障がい者ケアマネジメント)従事者養成研修
	令和2年9月	・令和2年度強度行動障害支援者養成研修
	令和2年10月	・令和2年度福島県サービス管理責任者等基礎研修
	令和2年11月	・令和2年度福島県サービス管理責任者等基礎研修
		・強度行動障害実践研修
令和3年1月	・障がい者虐待防止対応研修会	

その他の事業

見学者	月	見学者名(団体名)	内容
	11月	地域福祉ネットワークいわき	施設見学

令和2年度 活動内容実績

第2ちゃーむ

月	児童発達支援			放課後等デイサービス			総計	延人数		
	(幼)男子	(幼)女子	合計	(児)男子	(児)女子	合計		男子	女子	合計
4月 (26)	2	1	3	19	15	34	37	109	99	208
5月 (26)	2	1	3	19	15	34	37	113	97	210
6月 (26)	2	1	3	18	15	33	36	164	139	303
7月 (27)	2	1	3	18	15	33	36	159	137	296
8月 (26)	2	1	3	18	15	33	36	157	120	277
9月 (26)	3	1	4	20	15	35	39	164	130	294
10月 (27)	3	1	4	18	15	33	37	166	135	301
11月 (25)	3	1	4	19	15	34	38	154	118	272
12月 (25)	3	1	4	19	15	34	38	171	129	300
1月 (24)	3	1	4	19	15	34	38	167	121	288
2月 (24)	4	1	5	19	15	34	39	170	127	297
3月 (27)	4	1	5	19	15	34	39	186	135	321
合計	33	12	45	225	180	405	450	1880	1487	3367

利用者数（3月現在）

幼児	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
5	4	1	3	2	5	0	18

中学1	中学2	中学3	高等1	高等2	高等3	計
4	7	1	2	2	5	21

学校名

未就学	保育所	いわき支援	富岡支援	好間一小	内郷一中	合計
1	4	29	3	1	1	39

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	肢体不自由	その他	合計
22	6	4	0	7	39

手帳等級

療育A	療育B	手帳なし	合計
23	14	2	39

生活支援に関する事業

実施事業名	実施月	実施状況		主な実施内容	結果	
		参加人数	実施回数			
A 日 中 活 動	室内活動	通年	全員対象	毎日	一人ひとりの利用者の欲求を十分に満たし、生命の維持と情緒の安定を図る。	令和2年度は日中一時支援事業を利用する児童がいなかった。
	室外活動	通年	全員対象		近隣の公園・公共の施設の外出を通して基礎体力と心身の健康の増進を図る。	令和2年度は日中一時支援事業を利用する児童がいなかった。
	製作活動	通年	全員対象	月1回	手・指を使うことで日常生活活動能力の向上を目指す。また、製作活動を通して達成感を味わい自信に繋げる。	令和2年度は日中一時支援事業を利用する児童がいなかった。

会議および監査に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
A. 会議	令和2年4月 ） 令和3年3月	a. 職員会議(毎月) b. 個別支援方針決定会議(随時) c. 権利擁護委員会(随時) d. 権利擁護委員第3者との懇談会(12月) e. 次年度事業計画策定会議(10~12月) f. 行事計画会議(随時) g. サービス担当者会議(随時)
B. 監査	令和2年7月	・法人内部監査
	令和3年2月	・いわき市書面監査

その他の事業

見学者	月	見学者名(団体名)	内容
	11月	地域福祉ネットワークいわき	施設見学

利用者数

幼児	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
0	0	0	0	0	0	0	0

中学	中学2	中学3	高等1	高等2	高等3	計
0	0	0	0	0	0	0

学校名

未就学	保育所	いわき支援	富岡支援	好間一小	内郷一中	合計
0	0	0	0	0	0	0

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	肢体不自由	その他	合計
0	0	0	0	0	0

手帳等級

療育A	療育B	合計
0	0	0